

## 執筆者一覧

金田迪子 (カネダ、ミチコ)	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻博士前期課程在学中
佐藤里野 (サトウ、リノ)	お茶の水女子大学基幹研究院基幹教育系講師
マスワナ紗矢子 (マスワナ、サヤコ)	お茶の水女子大学基幹研究院基幹教育系講師
Edward Schaefer (エドワード、シェイファー)	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科文化科学系名誉教授

## Contributors

Michiko Kaneda	Graduate Student, Graduate School of Humanities and Sciences (Master's Program), Ochanomizu University
Rino Sato	Lecturer, General Education Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University
Sayako Maswana	Lecturer, General Education Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University
Edward Schaefer	Professor Emeritus, Division of Cultural Sciences, Graduate School of Humanities and Sciences, Ochanomizu University

## 編集後記

*Journal of the Ochanomizu University English Society* 第6巻を無事にお届けすることができ、安堵しております。今年度は国立大学法人第2期中期目標期間の最終年度にあたり、大学全体が慌ただしい雰囲気になっておりました。また、文部科学省によって示された人文科学系学部の再編・廃止案を巡る論議もある中、英語英米文学を生業とする本学会及び本学会が基盤をおく英語圏言語文化コースと言語文化学科、文教育学部といった組織のあり方についても考えさせられる一年でありました。幸い、本学では人文科学系学部の再編も廃止もなされることはありませんでしたが、このような意見が出てくると自体に危惧の念を抱く教員もおりましたし、学部オープンキャンパスでは受験生から心配の声も寄せられました。

大学で行っている研究と教育の意義が以前とは異なった次元で社会から厳しく問われ、絶えず外部からの評価に晒されることにより、大学にはある種の緊張感が生まれるようになりました。このこと自体、一概に悪いことではないのかもしれませんが、性急な成果主義は、深い内省に基づいた研究を行いにくしていることも事実です。本学会も決して例外ではないはずであり、学会員の中には（私自身も含め）、もう少し時間をかけて研究に携わりたいという方は大勢おられることと思います。その一方で、このような環境にも関わらず、与えられた時間を有効に使い、口頭発表や論文という形で発信なさる方も本学会には大勢おられます。本学会が発足して7年が経過しようとする今、どのような形であれ、真摯に研究に向き合う方々にとって良い組織であり続けなければなりません。

最後に、本ジャーナルの刊行に際して、今年も数多くの方々にご協力をいただきました。忙しい中短時間で論文を査読して下さった先生方と編集委員会の皆様には心よりお礼申し上げます。特に、編集委員の松浦恵美さんには、労を厭わず編集作業の細部にわたりご助力いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

お茶の女子大学英文学会会長 野口徹